



H30 年 8 月 23 日

南相馬市議会議長

会派名 友和会

代表者氏名 平田 武



調査研究報告書

- 1 期間 H30年8月20日(月)～H30年8月22日(水)
- 2 参加者
- | | | | |
|---|-------|---|-------|
| ① | 平田 武 | ② | 細田 廣 |
| ③ | 今村 裕 | ④ | 田中 一正 |
| ⑤ | 鈴木 昌一 | ⑥ | 中川 庄一 |
| ⑦ | 山田 雅考 | | |
- 3 旅行先及び調査研究内容 別紙のとおり

調査研究内容

月日	H30年8月20日(月)～H30年8月22日(水)
旅行先	徳島県美馬市、小松島市(オーゲツ株式会社)
調査研究事項	廃校となった5小学校の無償貸出し及びLED利活用による植物工場の実態調査
〔内容〕	
1 美馬市廃校施設利活用事業(説明者:美馬市ふるさと振興課長、担当係長)	
<p>廃校(園)となった幼稚園や小学校の施設の一部を無償で貸出し、地域活性化につながる計画を進めていた美馬市。背景には児童数の減少があり、このままでは複式学級をはじめ、教員の配置数減による免許外教科の指導が増えるといった危機感があった。平成17年に3町1村が合併し、小学校では児童数が-23.5%減、中学校では生徒数が-16.5%と予測された。このことにより平成22年度に幼稚園2園と小学校6校が休校となり、平成23年度には今後30年の方向性を示したが、平成24年2月に住民団体より「早期着手」を求める3,200人分の署名が提出され、平成24年度に「美馬地区学校再編計画」を策定。5年間で「美馬地区1校」とする方針を決定した。</p> <p>その後、「調査委員会」を立ち上げ、「跡地利用検討委員会」の設置やアンケート等を実施し、地域貢献度にどれだけ寄与できるかを基本に、活用主体を広く全国から募集。現在、市内5社、市外2社が利用しており、主に放課後児童クラブやコミュニティ施設、更に災害時の炊き出し拠点等で運用している。</p> <p>特筆すべきは、教育委員会ではなく、ふるさと振興課が主体となって募集や運営管理を行っていることや、自治会や保護者の意向を重視していることが挙げられる。詳細は、添付資料を参考にされたい。</p>	
2 オーゲツ(株)によるLEDを利用した植物工場の実態調査(説明者:大栗社長 他)	
<p>「農業を魅力ある職業にしたい」そんな思いから植物栽培に適したLED光源の研究を進め、植物栽培用LED「VGLシリーズ」を開発したオーゲツ(株)。葉菜類のみならず、果菜類、薬用植物などの栽培も可能にした。多様な品目を生産することで、カフェ、レストラン、ホテルなどの業務用分野において販売競争力を高めることにも成功。閉鎖型の工場のため、病虫害の心配がなく、生育期が一定の期間で安定し、欲しい品目を欲しい時に欲しい量だけ生産することが可能となり、よって過剰在庫による値崩れも防ぐという一石三鳥の取り組みと言える。詳細は添付資料を参照されたい。</p> <p>何れの施策も南相馬市でも取り組み可能と思われる。特に廃校の利活用については、学校の統廃合と同時並行的に協議・検討すべきと痛感した。</p>	